

初心にかえり、新たな気持ちで新年のスタート ～クメール正月～



出発前に忘れ物がないかチェックします



元気に行ってきます！



近所の人も集まってきて、お出迎え

皆さん、こんにちは。日本ではすっかり温かくなったころでしょうか。こちらカンボジアは、乾季から雨季へ移り変わる時季を迎え、時折急に雨が降ることも多くなり、東の間の涼しさを感じることができます。

今回のDream通信では、雨季を目前とした4月のカンボジアの旧正月に行った子どもたちの帰省について、新入園児についての2つをお伝えします。

クメール正月

4月14、15、16日の3日間は、カンボジアの旧正月にあたる「クメール正月」でした。子どもたちは毎年2回、このクメール正月と10月にあるお盆に、園に来る前に暮らしていた育ての親の家に1週間ほど帰省しています。

この年2回の帰省を設けているのは、子どもたちが、園に来る前の暮らしがどのようなものであったか、なぜ園に来ることになったのかを思い出し、育ての親や親戚、また里親様をはじめ日々支援してくださっている方々への感謝の気持ちを忘れないようにするためです。

子どもたちにとっては半年ぶりに育ての親や近所の友だちと会える、とても楽しみな期間でもありますが、その目的を忘れず達成できるように、帰省前、園では子どもたちとのミーティングの中で、「帰省中に育ての親、親戚と園で暮らすことについてよく話し合い、自分の意志で園に戻ってくる」という宿題を出しました。

今回の帰省は、4月9日から18日の日程で行ないました。9日と10日の2日間を使い、72人の子どもたち全員を5台の車に分け、それぞれの育ての親の元に送り届けました。

子どもたちを送っていくと、育ての親・親戚が子どもたちの帰りを楽しみに待っていてくれました。家に到着し、まずは職員から子どもたちの学校での成績、園での生活態度について、育ての親へ報告をします。そして、家でもしっかりと指導してもらおうよう、お願いしました。



勉強も農作業も頑張ることを約束しました



元気いっぱいに戻ってきました



少し園の生活に慣れてきました



一所懸命文字を書いて勉強します

18日、帰省を終え、園に帰る日です。子どもたちの家へ迎えに行き、職員から育ての親へ、子どもたちの家での様子、育ての親から子どもたちにどのような指導をしたか、どのようなことを話し合ったのかなど確認します。また、子どもたちには自らの意志で園に戻ることを決めたのか、最終確認をします。そして出発時には、「元気でやりなさい。そしてしっかり勉強しなさい。」と育ての親から子どもたちに声がかかりました。

園に戻る車の中では、子どもたちはお互いに帰省中何をしていったのか、どこへ行ったのか、のお喋りに夢中でした。市場へ買い物に行ったこと、テレビを見たこと、お正月料理のお手伝いをしたことや、お寺にお参りに行ったことなど、それぞれの楽しかった出来事を報告し合っていました。

今回の帰省でも、子どもたちは怪我もなく、無事に戻ることが出来ました。帰って来た子どもたちの日記には、育ての親と園での生活や自分の将来について話しができたこと、これからも園で勉強を頑張ると約束したこと、そして毎日の楽しかったこと、お手伝いをした内容などがたくさん書かれています。

毎回の帰省により、子どもたちは初心に戻る事が出来、新たな気持ちで園での生活を送ることが出来ます。周りの人やものへの感謝の気持ちを忘れず、自分たちの将来のために、今後さらさら毎日の勉強に農作業に励んで欲しいと思います。

新入園児

4月18日、「夢追う子どもたちの家」に新しく仲間が加わりました。名前はヒアン・モニーレアッサーです。昨年の10月に小学1年生になったばかりの7歳の女の子です。バタンバン州にある親戚の家に母親と5歳の弟と一緒に暮らしていましたが、母親には仕事がなく、親戚も家族が多いために養うことが出来ず、園に来ることになりました。

まだ来たばかりで不安そうな顔を浮かべていますが、歳の近い友だちと遊ぶ時などは楽しそうに笑っています。また、一番小さいため大きい子どもたちからは可愛がられ、世話を焼いてもらっています。しかし夜寝る時には怖い、と保母さんと一緒に寝ています。

さっそく学校にも通い始めました。園の中では1年生は一人だけですが、2年生、3年生の子どもたちとは登校も下校も一緒です。午前授業を終え、園に帰って来てからは、副園長と一緒にクメール語の書き方と読み方から勉強しています。黙々と教科書を書き取った後は、詰まりながら何度も何度も読み返し、一所懸命勉強に取り組んでいます。

これから、勉強も農作業も頑張り、たくさんのことを学びながら、成長していくことを期待しています。